

〈研究成果の紹介〉

三重県における水田雑草の残草状況

農業研究部作物グループ

1. 成果の内容

水田雑草を効率的に防除するため県内127地域1394筆の水田について、発生する雑草の草種と発生量を調査しました。

ノビエはタイヌビエが少なく、イヌビエがほとんどでした。イヌビエには多発生水田が一部ありました。

一年生広葉雑草は、コナギ、アゼナ類、カヤツリグサ類、ミゾハコベ、イボクサ、トキンソウの残草が多くみられます。また、アゼナ類、ミゾハコベの多発生にはスルホニルウレア系除草剤抵抗性型が確認されています。

大型広葉雑草はクサネム、アメリカセンダングサ、タカサプロウ、チョウジタデ、ヤナギタデなどの残草が10~20%認められます。これらの雑草は近年増加する傾向にあり、対策を検討する必要があります。

ウリカワ、ミズガヤツリなどの多年生雑草は残草率が5%以下でした。しかし、セリは水田内部では少ないものの畦畔付近で多く観察され、残草率は30%と高い状況でした。

イネ科多年生雑草（俗称ヨバイグサ）は発生草種に地域差があります（図2）。キシュウスズメノヒエの発生率は北勢、中勢地域で10~20%程度、南勢地区で約40%ですが、伊賀地域では確認されませんでした。逆に、伊賀地域ではアシカキが多く、また平

野部では一部でしか確認されなかったサヤヌカグサ、ハイコヌカグサが比較的散見されます。

2. 技術の適用効果と適用範囲

これらの調査結果は、今後の水田除草剤の選択や使用方法に活用できます。また、今後と同様の調査を行った場合に、雑草種の変化を明らかにすることができます。

3. 普及・利用上の問題点

志摩、紀州地域では調査していません。これら地域では気候、作型の違いから、残草草種が異なる可能性があります。

（神田 幸英）

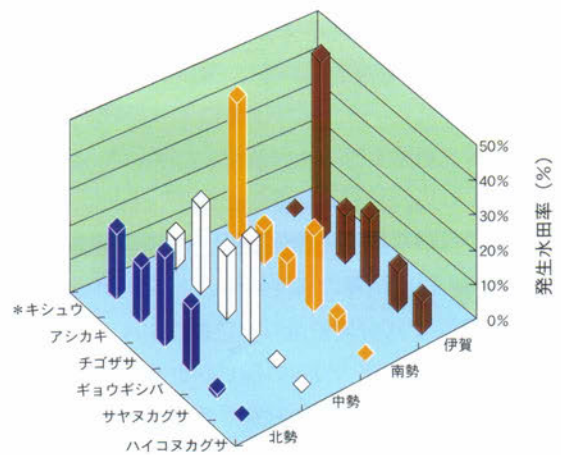


図2 イネ科多年生雑草の発生水田率
 図中「*キシュウ」はキシュウスズメノヒエ

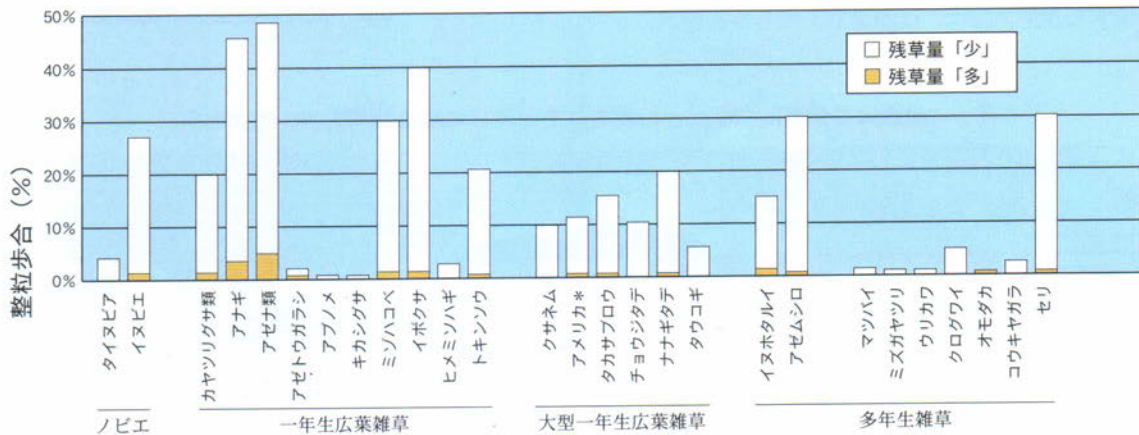


図1 主な水田雑草の残草水田率(2001、2002)

残草量「少」はおおよそ50本/m以下、「多」は50本/m以上。図中「*アメリカ」はアメリカセンダングサ